

第 3 章

ユニバーサルデザインの
まちづくりの基本的方向



ここでは、ユニバーサルデザインのまちづくりの基本的方向の全体像とそれらを考える上でのキーワードについて述べます。また、区においてユニバーサルデザインのまちづくりを推進するプロセスを示します。

1 ユニバーサルデザインのまちづくりを推進するためのキーワード

第2章で検討した課題について整理する中で、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進するためのキーワードとして、「やさしさ」「やくそく」「まち・暮らし」「しくみ」があげられました。これらを基本として、まちづくりに取り組んでいきます。

(1) やさしさ(人の気持ち)

「やさしさ」は、みんなが持っている気づきの心や思いやり等を示しています。まちづくりを進める上で、一人ひとりが持っている「やさしさ」をまちの中で広げていくことが大切です。

具体的なユニバーサルデザインの「やさしさ」のイメージは

- 困っている人がいた時、気軽に声をかけあい、手を差し伸べる思いやり
- 相手の立場に立って個々の個性や立場の違いに気づくこと
- 心のバリアを取り除き、互いに理解し合うこと

等です。

このように「やさしさ」は、みんながユニバーサルデザインの考え方で行動するための基本となる「人の気持ち」を示します。



(2) やくそく(人の行動のルール)

ユニバーサルデザインの考え方に基づき、まちの施設や設備をいくら整備したとしても、使う人がまちの施設や設備の使い方やルールの意味を正しく理解しなければ機能しません。この使い方やルールを「やくそく」と表現しました。

具体的なユニバーサルデザインにおける「やくそく」のイメージは

- まちの施設や設備の使い方のルールをみんなで守ること
- まちの中に備わっている施設や設備等、(例えばスロープ)の意味、使い方を理解すること



● 互いの立場等を理解し、守るべきマナー、モラルのこと 等です。

このように「やくそく」は、まちの中での「人の行動のルール」を示します。



(3) まち・暮らし(まちの環境)

「まち・暮らし」は、人を取り巻く環境を表しています。例えば、道路や施設、情報・サイン等の「まちの環境」のことで、人々の生活の基盤を表しています。ユニバーサルデザインの考え方を、「まち」や「暮らし」の中の様々な場面で取り入れることが必要です。

具体的なユニバーサルデザインの「まち・暮らし」のイメージは

- 安全で安心な生活ができること
- 維持・管理が行き届いていること
- 標識等が誰でもわかりやすいこと
- 移動しやすいこと
- 人が優先のしくみや手段がそろっていること
- 選択可能な多様な移動手段が用意されていること



等です。

このように「まち・暮らし」は、人々の生活の基盤となる「まちの環境」を示します。

(4) しゅくみ(行動の仕方、協働の進め方)

「しくみ」は「まち・暮らし」の中で、「やくそく」を認識し「やさしさ」を広げ、具体的に行動するための方法や協働で取り組むための組織や制度を示します。

具体的なユニバーサルデザインの「しくみ」のイメージは

- ユニバーサルデザインのまちづくりに参加・参画するしくみ
- ユニバーサルデザインのまちづくりを評価するしくみ
- ユニバーサルデザインのまちづくりを継続するしくみ
- 以上の参加・参画すること、評価すること、継続することを楽しむしくみ

さらに

- 関係者が協働・連携するための体制や支援組織、制度等のしくみ

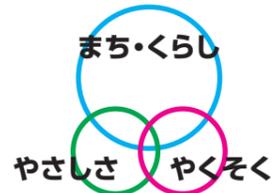
等です。

このように「しくみ」は、関係者みんなが理想的なまちの姿をめざしていくための「行動の仕方、協働の進め方」を示します。

2 ユニバーサルデザインのまちづくりの進め方

区で進めるユニバーサルデザインのまちづくりのプロセスを、「やさしさ」「やくそく」「まち・くらし」「しくみ」の関係とまちづくりを推進する時間の流れの中で見ていきます。

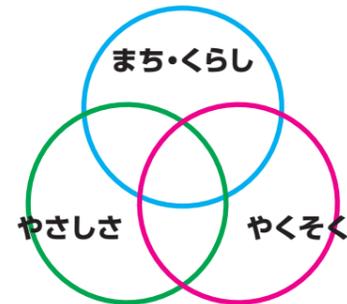
現状



学習や体験を重ねる
行動に移す

現状は、ユニバーサルデザインの考えが十分に浸透していない時期です。この時期は、個々の人々が「やさしさ」を持ち、「やくそく」を理解してもその広がりは限定的です。また、「まち」の中や普段の「くらし」の中では、いまだ道路に段差があったり、標識の表示が不統一であったり、さらに、スロープ等が設置されている理由への認識が不十分な状況です。このため、学習を重ね行動に移すことが必要な時期です。

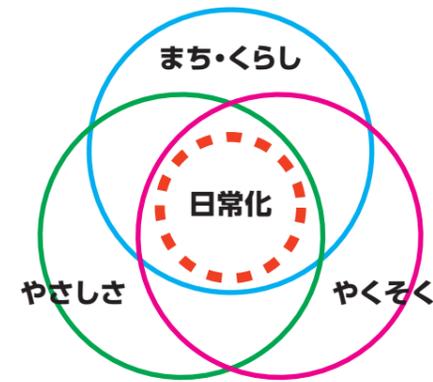
導入当初



気づきや声かけが当たり前になる

導入当初は、ユニバーサルデザインの考え方が広がり始め、それに沿って人々が行動することができるようになった時期です。この時期は、各人が持っている「やさしさ」が広がり、人と人の支えあいや思いやりにつながります。「まち」や「くらし」のなかでは、道路や施設が使いやすく整備され始めます。こうしたことで、ルールやマナー等の「やくそく」がしっかりと認識され、行動に移せるようになります。

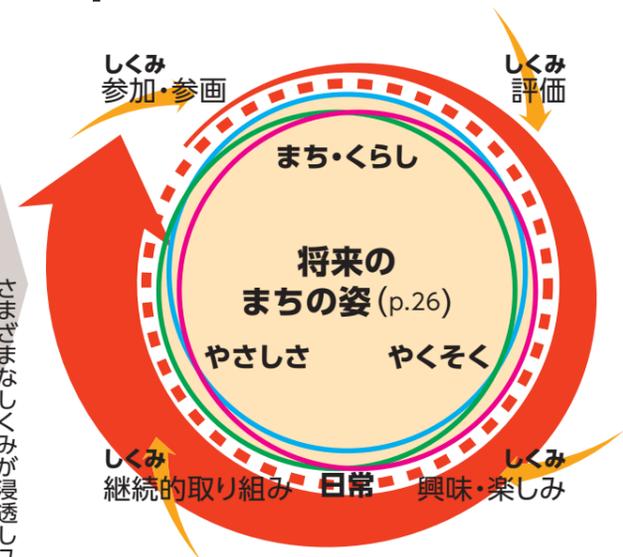
日常化



さまざまなしくみが浸透しユニバーサルデザインのまちに近づく

「やさしさ」「やくそく」「まち・くらし」それぞれが広がりながら重なり合うことで、ユニバーサルデザインの考え方が浸透し、ユニバーサルデザインのまちが日常化していきます。このように、ユニバーサルデザインのまちが、誰にとっても当たり前になります。

大田区が取り組む ユニバーサルデザインのサイクル



区がめざす将来のまちの姿は、「やさしさ」と「やくそく」が「まち・くらし」と重なり合って、一体になり実現します。この状況の継続は、誰もが楽しんでまちづくりに参加・参画し、継続して取り組み、正しく検証・評価することにより可能となります。また、ユニバーサルデザインのまちづくりを支える体制や制度等「しくみ」が整備され、改善の取り組みのサイクルが円滑に行われるようになります。

3 ユニバーサルデザインのまちづくりの内容

(1) 将来のまちの姿

区の現状、課題を踏まえて、「大田区ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針に関する区民検討会」(p.86)における検討の結果、めざすべき将来のまちの姿を以下のように表しました。

やさしさが広がり、 だれもが安心して快適にすごせるまち おおた

これは、区民一人ひとりが「やさしさ」を持ち、「やくそく」をしっかり理解し、まち全体にもやさしい気持ちを広げていくことを示しています。

そうした「やさしさ」の広がりが、徐々に「まち・暮らし」を変え、誰もが安心して快適にすごせるまちをつくり出していきます。

さらに、この将来のまちの姿を日常化するために、まちに関わるすべての人が、「やさしさ」「やくそく」を原動力とした協働の「しくみ」を確立し、まちづくりに取り組むことをめざします。

(2) ユニバーサルデザインのまちづくりの考え方

「将来のまちの姿」の実現に向け、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進するためのキーワード(p.22~p.23)をもとに、次の三つのまちづくりの考え方を決めました。

その実現のため、ここでは

- 「やさしさ・やくそく」(人の気持ちや行動のルール)に関する考え方
互いの違いに気づき思いやりの心を育む場や機会をつくります
- 「まち・暮らし」(まちの環境)に関する考え方
だれもが安心して簡単に移動・利用できる快適なまちをつくります
- これらを推進していくための「しくみ」(行動の仕方、協働の進め方)に関する考え方
みんなの声を活かし継続的にまちを見守り育てるしくみをつくります

(3) アクションプラン*

これら三つのまちづくりの考え方に基づいて、課題を解決し、まちづくりを具体的に推進していくためのアクションプランを決めました。

アクションプランは、区民、事業者、地域の団体等、区の、立場の異なる各主体が相互に連携し、知恵を出しあい、地域力を活かしながら協働することにより、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進するための指針(行動計画)でもあり、このアクションプランを実践していくことで、課題の解決に取り組んでいきます。

アクションプランの推進や事業の実施にあたっては、区民・事業者・地域の団体等と区が、ともに振り返って評価・検証し、改善すべき点を見直します。また、アクションプランの実効性を高めるため、(仮称)UD区民検討会*において事業に関する個別計画を作成すること等も検討します。

(4) 基本方針の体系図

次頁では、「将来のまちの姿」「まちづくりの考え方」「アクションプラン」の関係を体系図として表しています。

将来のまちの姿	まちづくりの考え方	アクションプラン項目・施策
<p>やさしさが広がり、 だれもが安心して 快適にすごせるまち おおた</p>	<p>1. やさしさ・やくそく (p.32-43)</p> <p>互いの違いに気づき 思いやりの心を育む場や機会をつくります p.32-33</p>	<p>1-1 ふれあいでもかり合える区民の交流促進 (p.34)</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインを理解する機会づくり(講座等) ユニバーサルデザインのイベント開催及び活動支援 社会参加活動や自立支援の体制づくり <p>1-2 楽しく学べるユニバーサルデザインの教育推進 (p.36)</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もが参加しやすいユニバーサルデザインの視点を取り入れた学ぶ場づくり 多様なユニバーサルデザイン教育、研修等の機会づくり <p>1-3 区民・事業者・地域の団体等・区が協働で取り組む普及・啓発 (p.38)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設のユニバーサルデザインの促進 誰もが住みやすい住宅のユニバーサルデザインの促進 公共的空間におけるルールやマナーの普及・啓発活動の推進 ユニバーサルデザイン地域活動の発信 障がい者等の就労支援 <p>1-4 情報の発信・提供 (p.42)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な工夫を凝らしたわかりやすい情報の提供 様々な伝達手段(IT、通訳、手話等)を活用した情報の提供 日常生活に役立つ情報の提供
	<p>2. まち・暮らし (p.44-57)</p> <p>だれもが安心して簡単に 移動・利用できる快適なまちをつくります p.44-45</p>	<p>2-1 安全で楽しいみち・場所づくり (p.46)</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの視点による道路の整備や維持補修 公共的空間におけるユニバーサルデザインの推進 <p>2-2 ユニバーサルデザインの公共的施設づくり (p.48)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共的施設におけるユニバーサルデザインの積極的導入 ユニバーサルデザインの視点に立った公共的施設の活用、利用促進 <p>2-3 円滑に移動できる施設・設備としくみづくり (p.50)</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もが利用しやすい移動施設・設備の整備・充実 <p>2-4 自転車と歩行者が共存するまちづくり (p.52)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車と歩行者が共存するための環境整備 <p>2-5 楽しい商店街・魅力ある買い物空間づくり (p.54)</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もが利用しやすい安全で快適な商店街づくり 誰もが楽しく歩けるまちづくり <p>2-6 まちなかをわかりやすくする案内・サインの充実 (p.56)</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰にもわかるまちなか情報の提供
	<p>3. しくみ (p.58-67)</p> <p>みんなの声を活かし継続的に まちを見守り育てるしくみをつくります p.58-59</p>	<p>3-1 地域力を活かしたユニバーサルデザイン推進体制づくり (p.60)</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインのまちづくりを推進する協働の体制づくり ユニバーサルデザインのスパイラルアップのしくみづくり (仮称)UDサポーター等のまちづくり点検のしくみづくり 多くの人が集まる拠点(場所・施設)のユニバーサルデザインの推進 まちづくりモデル事業によるユニバーサルデザインの推進 <p>3-2 区民参加による地域力を活かす組織づくり (p.64)</p> <ul style="list-style-type: none"> (仮称)UDサポーター等区民と協働のユニバーサルデザインのまちづくり点検の実施 <p>3-3 行政サービスのユニバーサルデザイン (p.66)</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡素でわかりやすい行政サービスの提供 ユニバーサルデザインに関する研修、体験の実施